

第2回

影をなくした男

学習時間

40分

学習日

月 日

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

パーティーで見かけた一人の男は、自分のポケットから次々と品物を取り出す不思議な力を持っていました。パーティーの帰り道、その気味の悪い男は「私」に話しかけてきました。

ひどいき言葉をのんでから男はつぶいてこう言いました。

「ほんのしばらくのあいだでしたが先ほどご同席させていただいていたとき、実は——思いついて申し上げるのですが——それはそれは美しいあなたの影にうっとりで見ほれていたのをごぞいますよ。(A) あなたときたら足もとのご自分の影にはとんと無頓着なふうで、ちつとも目をやるうとはなさいませんがね。はなはだ厚かましいお願いできようしゆくですが、いかがでしょう、あなたのその影をおゆずりいただくわけにはまいらないものでしょうか」

① 私は頭の中で風車がまわるような気がしました。影を買いたいなんぞの申し出をどう受け取ればいいのでしょうか？ きつと気がふれているにちがいありません。そこで相手の調子を受け流すかねあいてことさら気軽に答えました。

「おやおや、あなた、どうなさったというのです、自分の影だけでは不足だつてわけですかね。こんなきみような取り引き

は世に二つとありますまいよ」

男はすぐさま言いました。

「このポケットには、あなたの気にいるはずのものがどっさり入っておりますですよ」

例の不思議なポケットを思い出して背すがゾツとしました。20

「まことにあいすまぬことですが、おっしゃることがのみこめないのです。わたしのような者の影をどうしてまた——」

「今すぐこの場であなたのその高貴な影をちょうだいできないものでしょうかな。② どうやってお引きわたしたくかはこの

ちらにまかせていただきたい。お礼の方はこのポケットの宝物のうちからなんなりと好きなものをお取りください。あらゆる望みをかなえてくれる魔法草もございますよ。それともこちらになさいますか、幸運の金袋でございますよ」

「幸運の金袋ですって！」

私は思わずさげびました。おそろしさにふるえてはいました。30

「どうぞこの袋を手にとって、おためしになってみてください」
ためしに袋に入れて引き出すと十枚の金貨が出てきました。もう一度手を入れるとまた十枚、さらに十枚、もひとつ十枚というわけです。

③「よし、承知だ。こいつと影とを取りかえよう！」

私は男の手をにぎりました。すると男はこちらの手をにぎり返し、ついで私の足もとにひざまずくと、いともあざやかな手つきで私の影を頭のとっぺんから足の先まできれいに草の上からもち上げてクルクルと巻きとり、ポケットに収めました。40

今回の問題文

きみのような取り引きを申しこまれた「私」の気持ちを答えよう。

問一 (A) に適切なものを次の中から一つ選び、記号を○

で囲みなさい。

- ア ですから イ ところが
ウ なぜなら エ それとも

問二 —— ①の説明として適切なものを次の中から一つ選び、

記号を○で囲みなさい。

- ア あまりにうれしい申し出にとても興奮している。
イ あまりにおかしな申し出にとても混乱している。
ウ 一方的なひどい申し出に泣きだしそうになっている。
エ 自分の心を見すかされたような申し出にあせっている。

問三 —— ②、「私」の影が男の手にわたる様子がえがかれた

一文の最初の五字を書きぬきなさい。

□□□□□

問四 —— ③、なぜ「私」は承知したのですか。その理由を簡単に

に書きなさい。

問五 —— X、この取り引きの結果、「私」と男はそれぞれ何を

手に入れたのですか。書きなさい。

「私」 〃

男 〃